

コミュニティの行方

本章では、コンテンツの話題からは離れ、コミュニティの議論に移る。けれど、ここでもやはり、ネットワーク上の人と物を繋ぐ概念が構想されている。

社会が流動化するなか、中間共同体の重要性が説かれて久しい。出版界という文化共同体の「危機」については周知の通り。

西田論文は、コミュニティという概念自体の批判的検討からはじめる。従来は別物と考えられてきたオフライン／オンラインの両方を並べて論じ、より多様性をもつものへと更新を図る。内沼論文は、出版流通システムの内と外を往復しながら、本の現在を語る。そして既存システムの外側で勃興しつつある活動をも「本」と捉え、未来への可能性を提案する。